

教科等研究会（小・中学校書写部会） 平成29年度 教科等のまとめ

1 研究テーマ

自分の書いた文字が好きになり、書くことに意欲が持てる書写指導の在り方
～自ら気づき、高められる実践を求めて～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
6/9	年間計画	広安小	8/8	夏季講習会	広安小	11/14	清和中	中村教諭	2/26	実践報告会	広安小

3 研究の概要

（1）研究の内容

本年度、さらに研究を進めていくために、昨年度と同様にテーマを引き続き同じものとした。

「書いた文字が好きになり」とは、ポイントをつかんだ練習をすることで、よりよく変化していき、その変化により自分の書いた文字に自信が持てるようになることと考える。そして、その自信が「書くことに意欲が持てる」ことにつながっていくと考える。

「自ら気づき」とは、書くこと→ポイントをつかんだ練習→清書→評価という流れの中で、『お手本に近づくためには』『相手が見やすいためには』どのような改善が必要かを自ら考えることであり、「高められる」とは、自分が活動していることに目的意識をしっかり持ち、より良い作品作りや日常の書く活動につなげられるような実践を追究していくことだと考える。また、評価活動の中には、自分の言葉や文字で表現する場面を設定し、言語能力を鍛え、課題の分析により、明確に意欲を持った学習活動が展開されることをねらっていく。

研究授業は、小学校と中学校が交互に担当し、相互の立場から意見交換する形で研究を進めている。しかし、小・中学校では、ねらいや授業内容がそれぞれ異なるため、1回の授業研究会では実践力の向上を図ることが難しい。そこで、年度末に、一人一人の授業実践を発表し意見交換を行う実践報告会を計画している。会の中では、多くの実践例を持ち寄ることで、小中学校の連携を図るとともに、書写の楽しさを味わわせる活動の工夫や技術を高めるための指導方法を会員同士で共有できると思われる。

（2）成果と課題

本年度の授業研究会は中学校が担当し、2年生の「文や文章の整え方を確かめよう『自然を楽しむ』」（毛筆）であった。本授業では、文の整え方に気を付けて、「自然を楽しむ」を書くことができることをねらいとした。

授業の導入では、前時に書いた自分たちの作品を持ち寄り、3人グループで気づきを出し合う活動があった。生徒たちは、はじめはお互いの作品を比べながら話していたが、次第にポイントを確認するために手本を横に並べて確認しながら話すようになった。その中で、文字を整えて書くためにはどこに気を付ければよいか、自分たちで気づくことができていた。

その後の各自の練習では、よく集中して書いていた。囲み文字を使って練習を始めた生徒が多く、文字の大きさや線の太さをつかませるためにも手立てとして有効であったといえる。

終末には、上達したことを実感させる意図で、生徒のこの単元における最初に書いた字とこの時間に清書で書いた字を比べる活動があった。生徒自身が自分の上達したことを実感することができただけでなく、友達の上達にも気づくことができた。

課題としては、導入の気づきを出し合う活動において、せっかくももらったアドバイスを自分の作品にマーカー等で書き込んでいけば、その後の練習に生かしたという意見があった。また、文字の中心をそろえさせるための半紙の使い方や作品のビフォーアフターを比べる際の作品の並べ方についても、生徒が視覚的に見て分かりやすくするために工夫が必要だという意見もあった。

小中学校合同の部会なので、指導についても小中の連携を考えながら意見交換していくことができた。また、簡単な字であっても形をなかなかとらせることが難しい児童生徒の姿が書写のどの授業の中でも見られる。書写部会の研修の中で、書写の時間に見られる「子どものよくあるつまずき」を洗い出し、それ

に対する指導法を共有していけたらよいのではないかという意見が出された。来年度、取り組んでいけたらと思う。

4 実践事例

(1) 授業の概要

《授業者自評》

- ・ 個人練習の途中で、指導をしたほうがよいのか迷った。練習の時間が長かったので、指導を入れたほうがよかったのではないかと考えている。
- ・ 2時間扱いのこの単元の中で、上達したと生徒たちに実感させるにはどのような手立てがあればよかったのだろうか。また、どのようなことをアドバイスしていけばよかったのだろうか。
- ・ 今日は全員が文字のポイントや上達させることができたところを発表することができてよかった。

《研究協議の内容》

- ・ 文字白抜きの手本が有効だった。グループ活動でも生徒が使って話をしていだし、それと自分たちの作品を比べてみて気づいたことがあったようだった。
- ・ 班ごとに気づいたことを話して終わっていたので、それを全体で共有する時間があるとよかった。その上で、先生の解説を受けるという流れにする方法もあった。
- ・ 練習の途中で一度自分の作品を手本と比べてじっくり見る時間があると、生徒の字にさらに変化が見られたのではないかと思う。

(2) 学習指導案

第2学年1組 国語科（書写）学習指導案

日 時 平成29年11月14日（火）第5校時

場 所 2年1組教室

指導者 教諭 中村 朋美

1 単元名 行書を使いこなそう

文や文章の整え方を確かめよう「自然を楽しむ」（三省堂 p56～57）

2 単元について

(1) 単元観

① 学習指導要領における位置づけ

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

書写に関する事項

(2) 書写に関する次の事項について指導する。

ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。

イ 目的や必要に応じて、楷書または行書を選んで書くこと。

- ② 今日、一般家庭におけるパソコンや携帯電話の普及、インターネットの発達により手書きで文字を表すことが少なくなっている。しかし、一方では手書きのよさが認められ、生徒の日常生活のさまざまな場で生かされている事実を見ると、やはり手書き文字の役割は大きいと言えるし、文字を書く機会が減少する時代だからこそ文字を書く学習が必要になってきていると考えられる。中学生になると生活の場も広がり、生徒が活用する文字量も増え速く正しく書く必要性が高まってくる。「行書をつかいこなそう」の単元において、行書に調和する仮名の特徴を学ぶことで、中学校書写の「正しく、整えて、速く」書くという目標により近づけるものとする。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、9名である。全体的に静かでおとなしく、授業中の態度も落ち着いている。物事をじっくり考えて発言する生徒がほとんどで、授業中に積極的に発言する生徒は少ない。自分の意見に自信がなく、人前で発言することに抵抗を感じる生徒もいる。本年度の標準学力検査を見ると各領域で全国平均を上回っている。しかし男女差が大きく、国語の学習に苦手意識を感じている生徒もいる。今回の授業に先立ち、「書写に関する事項」の学習に関するアンケートを行った。「自分の書く文字をこれからどうしたいか」という問いに、もっとうまくなりたいと答えた生徒が7人おり、ほとんどの生徒が字を上手に書きたいと思っていることがわかる。また、「毛筆で文字を書くことが好きか」という問いには、好き／どちらかといえば好きと答えた生徒が6人おり、これまでの毛筆の学習に前向きに取り組んでいることがわかる。知っている書体については全員が「楷書」「行書」と答えていた。

生徒の実態から上手に書きたいという生徒の思いに目を向け、毛筆を書く中で自分の文字の変化を実感できる授業にしたい。

(3) 指導観

◎ 書写部会テーマとの関連

生徒が学習の見通しを持って授業に臨めるように、学習の流れを示したものをはじめに提示する。本単元では「文字の大小」「字間」「行の中心」「行間」の中で、特に「文字の大小」に気を付け、「行の中心」をそろえることを意識して書かせ、どう書いたかや気を付ける点などを自分の文字に書き入れさせ、練習を通して自分の文字の変化が実感できるようにする。そしてお互いにアドバイスを出し合う時間をとり、他者からの助言により自分の字の特徴や良いところに気づけるようにする。さらに、振り返りの時間を設け、自分が達成できたところや改善すべき点に気づかせ、これからの毛筆学習に生かしていける授業にしたい。

3 単元の目標

- 漢字（行書）と仮名を交えた文を整えて書く方法について理解する。
- 文の整え方に気を付けて「自然を楽しむ」を書く。

4 指導計画及び評価基準（2時間取り扱い）

時数	主な学習活動	評価
1	・授業の見通しをもつ。 ・行書に調和する仮名の特徴を知る。 ・硬筆課題を見て、どこを直したら読みやすくなるか考える。〈四つの視点〉 ・四つの視点に気を付けて試し書きをする。 ・自分がどのように書いたかを書き入れる。	・気を付ける四つの視点について理解することができる。（知識・理解） ・四つの視点に気を付けて試し書きができている。（技能） ・どこをどう書いたかを書くことができる。（関・意・態）
2	・授業の見通しをもつ。 ・班でお互いの試し書きにアドバイスを出し合う。 ・アドバイスを参考にして練習し、まとめ書きをする。 ・今日の学習を振り返る。	・お互いの字について、気づきを出し合うことができる。（関・意・態） ・アドバイスを参考にしてまとめ書きができている。（技能） ・自分の字の振り返りができる。（知識・理解）

5 本時の学習（2/2）

（1） 本時の目標

○文の整え方に気を付けて、「自然を楽しむ」を書くことができる。

（2） 本時の展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点・評価	備考
導入	5	学習用具の準備をする。	・授業開始までに習字道具の準備をさせておく。 ・今日の授業の見通しがわかるようにする。 ・文を整えるために大切な二つの視点（文字の大小・行の中心）に気を付けて書くことを確認する。	習字道具 ホワイトボード
		1 前時の復習、今日の授業の流れとめあてを知る。		
		T G 文の整え方に気を付けて、「自然を楽しむ」を書くことができる。		
展開	3 5	2 試し書きしたものを見て、二つの視点をもとにどこを直したら良いかを考え、班でアドバイスを出し合う。	・試し書きを見て、二つの視点（文字の大小・行の中心）をもとに良いところや直した方が良いところを見つけさせる。 ・「自」は小さめに、「然」「楽」は大きく、「し」は小さめに書き、行の中心をそろえることを確かめる。 ・班の中で、自分の作品と他の人の作品を比較したり検討したりして、それぞれの改善点に気づかせる。	前時に書いた 試し書きの紙 付箋
		3 アドバイスを参考にして「自然を楽しむ」を練習する。		
		4 清書を書く。		
まとめ	1 0	5 試し書きと今日の清書を比較して、自分の字を振り返る。	・自己評価し、自分が達成できたところ、改善すべきところを振り返らせ、今後の毛筆学習に生かしていくようにする。 ・手早く片付けができるよう指示する。	試し書きの紙 清書の紙 振り返りシート バケツ 紙を入れる袋
		6 片付けをする。		

評価基準A：漢字（行書）と仮名を整えて書く2つの視点を踏まえた毛筆作品を仕上げる能够做到ている。

評価基準B：漢字（行書）と仮名を整えて書く2つの視点を意識して書く能够做到ている。